

FUJITSU Software NetCOBOL

ライセンス : Windows (.NET)

2021年7月20日時点

購入製品が開発環境製品か運用環境製品かによってライセンスの考え方、購入方法が異なります。

1. 開発環境製品	2
1.1 開発環境製品を新規に購入する場合	2
1.2 旧バージョン開発環境製品をご使用の場合	2
2. クライアント運用環境製品	3
2.1 クライアント運用環境製品を新規に購入する場合	3
2.2 旧バージョンクライアント運用環境製品をご使用の場合	3
3. サーバ運用環境製品	4
3.1 サーバ運用環境製品を新規に購入する場合	4
3.2 旧バージョンサーバ運用環境製品をご使用の場合	5
4. 注意事項	6
4.1 バージョンアップする場合の注意事項	6
4.2 開発環境製品を運用環境として利用する場合	6
4.3 リモートデスクトップサービスを利用する場合	6
4.4 サーバ上で複数の NetCOBOL 製品を使用する場合	7
4.5 クラスタシステムにおける製品のライセンスについて	7
4.6 クライアント仮想化環境における製品のライセンス	8

1. 開発環境製品

1.1 開発環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

Windows (.NET)の開発環境製品には、開発のための 1 ライセンスが含まれています。本製品を使用するマシンの台数が 2 台以上になる場合には、ライセンスパック製品の購入が必要です。

開発環境

Windows (.NET) NetCOBOL では、お客様の用途に合わせて 3 つの開発環境製品を用意しています。各開発環境製品が提供している機能については、[機能一覧](#)をご参照ください。

製品名	製品概要
NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ for .NET	COBOL コンパイラを含む Visual Studio 開発環境製品
NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Base Edition に、帳票設計ツールを追加している開発環境製品
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージに、サーバアプリケーション開発を支援する高性能ソート・マージと 64 ビットアプリケーション開発環境を追加している開発環境製品

1.2 旧バージョン開発環境製品をご使用の場合

最新の Windows(.NET) NetCOBOL 開発環境製品は、旧バージョン開発環境製品の機能を包含しており、互換性を保っております。旧バージョン開発環境製品をご使用のお客様は、最新の NetCOBOL 開発環境製品へバージョンアップすることをお勧めします。

バージョンアップする場合

旧バージョン開発環境製品をご購入されているお客様に新バージョンを安価でご購入頂くためにバージョンアップキット製品を用意しています。旧バージョン開発環境製品をご使用の場合は、[バージョンアップ製品](#)を参照してください。対象となる旧製品については、[バージョンアップ対象製品\(Windows\(.NET\)\)](#)を参照してください。

バージョンアップする場合の注意事項

2. クライアント運用環境製品

2.1 クライアント運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

Windows(.NET)のクライアント運用環境製品には、運用のための 1 ライセンスが含まれています。本製品を使用するマシンの台数が 2 台以上になる場合には、ライセンスパック製品の購入が必要です。

製品種別

開発環境製品で作成されたアプリケーション(Windows フォーム、コンソールアプリケーション等)をクライアントで動作させるための運用環境製品を用意しています。

使用された開発環境に合わせて、クライアント運用環境製品を購入してください。

アプリケーションをサーバ上で運用する場合は、[サーバ運用環境製品](#)をご利用ください。

開発環境製品	クライアント運用環境製品
NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Base Edition クライアント運用パッケージ for .NET
NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ for .NET
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ for .NET	

2.2 旧バージョンクライアント運用環境製品をご使用の場合

最新の Windows (.NET) NetCOBOL クライアント運用環境製品は、旧バージョンクライアント運用環境製品の機能を包含しており、互換性を保っております。旧バージョンクライアント運用環境製品を ご使用のお客様は、最新の NetCOBOL クライアント運用環境製品へバージョンアップすることをお勧めします。

バージョンアップする場合

NetCOBOL シリーズ V3.0 以降は、サポート契約されているお客様のみバージョンアップ（無償）が 可能です。サポート契約されていないお客様は、新規購入となります。ご注意ください。

| [「SupportDesk」のご紹介](#) | [SupportDesk「お客様専用ページ」](#) |

[バージョンアップする場合の注意事項](#)

3. サーバ運用環境製品

3.1 サーバ運用環境製品を新規に購入する場合

ライセンス

Windows(.NET)のサーバ運用パッケージには、運用のための 1 ライセンス分が含まれています。

Windows(.NET)のサーバ運用環境製品購入の考え方は、以下のとおりです。

プロセッサライセンスは、本製品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要なライセンスです。

- シングルコアプロセッサの場合：1 プロセッサあたり 1 本の購入が必要です。
- マルチコアプロセッサの場合：コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。(注)

注) CPU 数、コア数などにより、プロセッサライセンスの数え方が異なりますので、必要ライセンス数については営業へご相談ください。

物理サーバーや仮想サーバー、オンプレミスやクラウドサービスなど、それぞれの利用形態における必要なライセンス数の算出方法については、「[必要なライセンス数の算出方法](#)」を参照してください。

クラスタシステムにおける製品のライセンスについては、「[クラスタシステムにおける製品のライセンスについて](#)」を参照してください。

開発方法

開発環境製品で作成されたアプリケーション(Web フォーム、XML Web サービス等)をサーバで動作させるために、運用環境製品を用意しています。使用された開発環境に合わせて、サーバ運用製品を購入してください。

開発環境製品	サーバ運用環境製品
NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ for .NET
NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ for .NET
NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ for .NET	NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ for .NET

3.2 旧バージョンサーバ運用環境製品をご使用の場合

最新の Windows (.NET) NetCOBOL サーバ運用環境製品は、旧バージョンサーバ運用環境製品の機能を包含しており、互換性を保っております。旧バージョンサーバ運用環境製品をご使用のお客様は、最新の NetCOBOL サーバ運用環境製品へバージョンアップすることをお勧めします。

バージョンアップする場合

NetCOBOL シリーズ V3.0 以降は、サポート契約されているお客様のみバージョンアップ（無償）が可能です。サポート契約されていないお客様は、新規購入となります。ご注意ください。

| [「SupportDesk」のご紹介](#) | [SupportDesk「お客様専用ページ」](#) |

バージョンアップする場合の注意事項

4. 注意事項

4.1 バージョンアップする場合の注意事項

Windows(.NET)の旧バージョンからのみバージョンアップが可能です。

Base Edition から Standard Edition へのアップグレードなどの Edition アップグレード手配はご用意していません。このような場合、新規に製品をご購入願います。

4.2 開発環境製品を運用環境として利用する場合

開発環境製品には、運用環境用のライセンスは含まれておりません。このため、開発環境がインストールされているマシンを運用環境としてご利用される場合、別途、運用環境製品およびライセンスの購入が必要になります。

- 開発環境製品の中には、作成したアプリケーションを運用するための環境（サーバ用、クライアント用とも）も含まれています。
これは、開発環境で作成したアプリケーションを動作確認するためのものであり、動作確認、テストを実施する場合は、運用環境ライセンスを購入して頂く必要はありません。
- 開発環境製品の中には、作成したアプリケーションを運用するための環境も含まれているため、購入した運用環境を新たにインストールして頂く必要はありません。

4.3 リモートデスクトップサービスを利用する場合

ここでは、Windows Server 2012 以降のリモートデスクトップサービスまたは Citrix MetaFrame/Citrix Presentation Server/Citrix XenApp を総称して「**リモートデスクトップサービス**」と呼びます。

- 開発時に利用する場合、仮想 PC が定義されたサーバに同時に接続するクライアント PC の台数分、開発環境製品のライセンス購入が必要です。
V7 以前は、開発環境をリモートデスクトップサービスで利用することはできません。
なお、前提となる Visual Studio のライセンスについては、別途ご用意していただく必要があります。Visual Studio のライセンスについてはマイクロソフト社の Web サイト等でご確認ください。
- 運用時に利用する場合、仮想 PC が定義されたサーバに同時に接続するクライアント PC の台数分、クライアント運用環境製品のライセンス購入が必要です。
- リモートデスクトップサービスを使用、かつサーバ上で COBOL アプリケーションを運用する場合、リモートデスクトップサービス利用時に必要なライセンスの他に、別途サーバ自身のライセンスが必要です。
リモートデスクトップサービス以外にサーバ運用を実施する場合、リモートデスクトップサービス利用時に必要なライセンスの他に、サーバ運用環境製品の購入が必要です。

- サーバへ NetCOBOL 製品をインストールする際の留意事項は、[サーバ上で複数の NetCOBOL 製品を使用する場合](#)を参照してください。

4.4 サーバ上で複数の NetCOBOL 製品を使用する場合

- リモートデスクトップサービスを使用せずに、サーバ運用環境製品とクライアント運用環境製品を同一サーバ上で使用する場合**
クライアント運用環境製品は、クライアント側からサーバ運用環境製品とは別のフォルダにインストールしてください。
- リモートデスクトップサービスを使用して、複数の NetCOBOL 製品を組み合わせて使用する場合**
サーバでは、リモートデスクトップサービスとは異なる製品を使用して、COBOL アプリケーションを開発、運用することが可能です。製品のインストールは、以下のようになります。この場合、リモートデスクトップサービス用のライセンスの他にサーバ用のライセンスが別途必要となります。

リモートデスクトップサービスから使用する製品	サーバ環境で使用する製品	
	開発環境製品	サーバ運用環境製品
開発環境製品	サーバにインストールした開発環境製品を、リモートデスクトップサービスを利用して、COBOL アプリケーションの開発ができます。	開発環境製品のみをインストールするだけで、サーバにおける COBOL アプリケーションの運用とリモートデスクトップサービスを利用した COBOL アプリケーションの開発ができます。
クライアント運用環境製品	開発環境製品のみをサーバにインストールするだけで、サーバにおける COBOL アプリケーションの開発とリモートデスクトップサービスを利用した COBOL アプリケーションのクライアント運用ができます。	サーバ運用環境製品のみをサーバにインストールするだけで、サーバにおける COBOL アプリケーションの運用とリモートデスクトップサービスを利用した COBOL アプリケーションのクライアント運用ができます。

4.5 クラスタシステムにおける製品のライセンスについて

Windows (.NET)の NetCOBOL のサーバ運用環境製品は、クラスタ構成されたシステムで運用できます。相互待機形態(Active/Active)で運用する場合は、各サーバに製品を購入する必要があります。運用待機形態(Active/Passive)で運用する場合は、運用系ノード分のプロセッサライセンスを購入してください。待機系ノード分のプロセッサライセンスの購入は不要です。通常運用時に待機ノードとなっているサーバには、運用ノードで購入したプロセッサライセンスをご利用ください。

4.6 クライアント仮想化環境における製品のライセンス

Windows (.NET) V8.0.0 以降の NetCOBOL の開発環境製品 および クライアント運用環境製品は、クライアント仮想化された環境で運用できます。

- 開発時に利用する場合、仮想 PC が定義されたサーバに接続するクライアント PC の台数分、開発環境製品のライセンス購入が必要です。
- 運用時に利用する場合、仮想 PC が定義されたサーバに接続するクライアント PC の台数分、クライアント運用環境製品のライセンス購入が必要です。ただし、Enterprise Edition では、利用できません。

購入したライセンスで当該クライアント PC 自身へのインストールも可能です。

【補足】

クライアント仮想化は接続台数ですが、リモートデスクトップは同時接続数になります。

富士通 MW のクライアント仮想化のライセンスポリシーでは定義されていないサーバ VDI は個別対応になります。